



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成30年 1月19日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ スミタイムズ ハカ*ック7 ツクリタイ

団体名 住みたいまち幡多学区を創り隊

所在地

連絡先

フリガナ

代表者氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	住みたいまち幡多学区を創り隊
事業実施小学校区・地区	幡多小学校
事業実施回数	新規 ・ 継続 3回目 / 【H28年度から】
課題	・ 「安心・安全 住みたいまち幡多学区」実現のためには、10年後、20年後を担う子供たちが育つ土壌を、今まで作ってくださった先輩方から引き継いでいく担い手が不足している。 ・ 私たち現役世代の30～50代は日々の生活や仕事に追われ、自分たちの時間を割いてまでなかなか地域づくりに参画することが難しいと考える人が多い。 ・ 興味のある行事に参加する人は多いが、参画してくれる人が少ない。 ・ 各町内会や、各種団体でも人材不足が深刻な課題である。 ・ 新しい事業があがってもなかなか、実現に向けて進めていく人材がいない。
事業の目的	・ 「安心・安全 <u>住みたいまち幡多学区</u>」を「安心・安全 <u>住み続けたいまち幡多学区</u>」を実現する。 ・ 30～50代で10年後を担う子供たちが育つ環境づくりに（学区づくり）に協力してくれる仲間を一人でも多く増やす。 ・ 学区内で活躍している体協や消防団、母の会や、各町内の子供会、小学校PTA役員、子育ての会、発達障害を持つ子の会などは、若い世代の方が活躍されているので、一緒に企画を考え、実践し、お互いがよき協力者になることで、繋がりを作り、多くの団体と連携を取り、協力し合い一緒に活動を行う。 ・ 関わる人が「楽しく、元気になる」ことをする。

1) 組織・体制の強化・拡大

○ 若い世代が活躍できる組織・体制を強化・拡大していきます

- ・行事、会議などに参加し、企画運営の協力をしながら、気の合う仲間、思いの近い仲間を見つけ、お互いの協力者になる様、活動をしていきます。
- ・事業に参加した方に声掛けをしながら協力者を募ります
- ・今までPTAや、支援ボランティアなどで活躍されていた方をお願いをしています。
- ・目標として活動するメンバーを20名以上にしていきたいと考えています。
- ・協力いただける団体と連携し、代表者の方にメンバーに加わってもらい、輪を広げる

2) 学区内の活性化を図る活動

① 発達障害の理解者・支援者を増やしていく推進活動

- ・当事者の保護者の方が相談できる会を充実させ、安心して子育てができるための支援（専門家を呼び相談会や、参考図書を充実させる）や、当事者たちが家から出て集えるイベントの支援を行います。
- ・講演会、勉強会、交流会などを実施し、当事者とどう関わればいいかわからない方に対して情報提供を行い、理解者、支援者を増やします
- ・引きこもりがちな子供たちに人とのかかわる機会を作り（お祭りのブース出店、研修会に参画する等）、地域の方と一緒に活動をし、お互いを知り合い、違和感がない環境をつくります

② 地域交流活動（誰もが気軽に参加できる事業を企画・運営）

- ・昨年好評だった「泥んこ遊びの会」を幡多学区防災訓練と同日程に実施します。遊び内容：宝探し、ビーチフラッグ、など
- また、企画運営は幡多小PTAイクメンクラブ（お父さんの会）・支援ボランティアと協力し進めていきます。

③ 幡多学区愛着度岡山NO. 1を目指す（住みたいまち幡多学区の実現）

1. 昨年度幡多学区にイメージキャラクター「はたワン」が誕生し、着ぐるみも作成いたしました。

学区の行事に積極的に参加して幡多学区の活性化に努めております。

今年度は以下の活動を行います。

- 1) イメージキャラクター学区内の定着化
- 2) 主な学区行事だけでなく、町内会行事、地域のあいさつ運動など、もっと多くの場に利用する。（イメージキャラクターの活用）
- 3) 外部に対してPR活動

	2. 地域に根付く活動を行う 1) 幡多学区 防犯の日の設定 岡山中央警察署の協力により、児童に向けた防犯教室を行います。 それに伴い学区としても防犯強化に努めるため、「安全・安心住みたい街幡多学区」の意識を高めるため検討・推進していく。 2) 地域あいさつ運動推進 小学校ではあいさつ運動に取り組んでおりますがはたワンとともに笑顔で明るい地域づくりとして特に保護者の方のあいさつが少ないと声が上がっているので、毎月10日、25日の保護者が一緒に登校する時期を利用して実施していこうと考えております。 無理がないよう順次計画立てて行っていく
期待される成果・目標	・ 活躍する若い世代が増える ・ 障害者も健常者も意識することなく生活できる ・ イメージキャラクターがいることで、笑顔が増える、楽しくなる、明るくなる、元気になる、愛着度が増す。 ・ 学区での防犯意識の向上 ・ あいさつを通じて笑顔で明るい地域になる。
企画などの工夫	・ やらされた感をなくせるように「お互い様の関係」をつくる。 (行事をする際準備や当日の運営などの人の貸し借りができるようにする) ・ 老若男女フラットな関係を作り、話し合いの場で意見が言いやすい雰囲気づくりを作る (例えば、あだ名で呼び合う、どんな意見も拾って話題にするなど) ・ 地域・学校と連携をとることで、スムーズな対応と、多くの方を巻き込むことができる
協働する団体等	・ 幡多学区連合町内会 ・ 幡多学区社会福祉協議会 ・ 幡多学区婦人会 ・ 幡多学区体育協会 ・ 幡多学区防災委員会 (連合町内会、社会福祉協議会、婦人会、愛育委員会、消防団、等学区内関連団体) ・ 幡多学区民生委員 ・ 幡多小学校 ・ 幡多小学校 PTA(幡多小学校イクメンクラブ含む) ・ 竜操中学校 PTA ・ 幡多学区子育て広場 ・ ウィズはあと(竜操中学校区発達障害を持つ子の保護者の会) ・ おひさま会(幡多小学校発達障害を持つ子の保護者の会) ・ ほっとステーション ・ 東公民館

事業の情報公開	① 回覧板を使う。 ② 公民館に掲示する。 ③ Facebook など SNS から発信する
学区地区への広がり	・ 幡多学区連合町内会の下部組織として活動していること、小学校、各町内会、各種団体の事業に参加し PR 活動を行うことと、学区内の方が幅広く参加していただける事業を実施することで、地域に広めていく ・ 学区の各種団体、町内会からも支援・協力をいただけるようになり、活動範囲や、協力して頂ける方々も多くなり、期待されることが増えている。

◎前年度は、以下の内容を実施することを目標に進めてきました。

1) 組織・体制をつくります

①若い世代が活躍できる組織・体制を拡大していきます

2) 学区内の活性化を図る活動を行います。

① 発達障害の理解者・支援者を増やしていく推進活動

② 地域交流活動（誰もが気軽に参加できる事業を企画・運営）

・田圃として使用していない場所を使って子どもの遊び場をつくります

→「泥んこ遊びの会」を実施します。

③ 幡多学区愛着度岡山NO. 1を目指す（住みたいまち幡多学区の実現）

幡多学区に愛着が持てる、幡多学区をもっと好きになる、そのきっかけとなるシンボル（イメージキャラクター）を作り、学区を盛り上げていきます。

④ 学区内の情報を発信していく仕組み検討

◎昨年を振り返り、反省しながら、今年度は次のように進めていきます。

1) について、学区の数多くの行事に参加・協力してまいりました。縦、横のつながりができ、また地域のために、本当に多くの方がかかわっていることも実感できました。ただ、多くの団体は、個々の思いで活動を始めている団体が多いため他とのかかわりがなく、連携が取ればもっとスムーズに行える活動が多くあるということも実感しました。活動を通じて、「繋ぐ」という役割も大事だと考えそういったことを行い、地道に継続していきます。

2) の事業については、多くの成果を得られました。

①は、特に学区の登下校の見守り隊をしてくださっている老人クラブの方々が子どものかかわりが増えたこともあり、講演会や支援などに参加してくださる方が増えてきました。各町内会長様も関心を深めてくださりました。今回も継続して進めてまいります。

②の活動として、泥んこ遊びを行いました。連合町内会長のアドバイスで防災訓練の一環で行わせていただきました。そのため、連合町内会、婦人会、愛育委員会、消防団等が全面協力してくださったため、初めての試みであるにもかかわらず、安全面や、運営に全く不安もなく進行することができました。

また、幡多小イクメン倶楽部のメンバーはあまり地域にかかわりがなかった方が多く、この企画をきっかけに親交も深まり、会を継続することで、若い男性が地域活動へ参画するきっかけづくりになると感じました。

今回も継続して進めてまいります。

③は、学区のイメージキャラクター「はたワン」が誕生いたしました。

着ぐるみも作成しました。計画では手作りを考えておりましたが、学区の有識者で検討をし、学区の予算を捻出していただき、業者に委託してイメージをそのまま反映し、長く使用できるものを作成いたしました。小学校の2学期の始業式にお披露目を行った以降、学区の行事（運動会、敬老会、柿祭りなど）に参加、また学校での交通安全教室など多くの場面に登場し、また小学校の配布物には「はたワン」を必ず印刷するなどし、どんどん浸透させております。

	はたワンが登場することで場が和み、笑顔が増えました。 今回はその活用範囲を広げ、活用方法をしっかりと検討し、学区内外に発信しながら、学区の活性化に努め、学区愛着度N o 1を目指し継続して活動を行います。 ④については各町内会が電子町内会の活用を検討しており、その動向をうかがいながら、小学校で使用されているメール機能を活用し、試行錯誤しながら連合町内会の課題として検討していくこととなった。ので、今回の事業からは外すことにしました。
次年度以降の予定	① 年度以後の活動計画 ・根気よく同士を集める。 ・今年度実施した行事を継続していく ・イメージキャラクターを活用し、愛着度おかやまNO. 1をめざす ②資金の確保について ■次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ■（ 10 ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 ○資金確保の具体的な方策：連合町内会費からの捻出、参加費、後援者からの寄付、その他助成金、
その他PRしたい点	・どの学区よりも熱く、まとまりがある学区だと実感できました。多くのアイデアを出し合い、学区が一致団結して多くの成果を生み出せると確信しております。「あの学区みたいになりたい」となるように活動を進めていきたい

事業スケジュール （企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。）

月日	活動内容				
	全般	①組織強化拡大	②発達障害	③地域交流	④愛着度向上
4月	キックオフ会議の実施（事業内容確認、計画立案（あいさつ運動・防犯の日等）	スタッフTシャツ作成	ウィズはあとスタッフ会議参加（年間行事打合せ）	泥んこ遊び準備会（学区防災委員会・PTA）	イメージキャラクター活用会議 防犯教室 あいさつ運動
5月	防犯の日設定についての打ち合わせ	募集チラシ作成			小学校運動会参加 あいさつ運動
6月		各種団体の総会出席時チラシ配布		泥んこ遊び準備会	学区イベント参加 あいさつ運動
7月		PRチラシ配布	そうめん流し（ウィズはあと、子育て広場）	高屋パークフェスティバル実行委員会参加（ブース出展、イベント企画について）	あいさつ運動

				防災訓練と共催 泥んこ遊び実施	
8月				高屋パークフェスティ バル実行委員会 参加(ブース出 展、イベント企 画について)	
9月		PRチラシ配布		高屋パークフェ スティバル参加 (ブース出展、イ ベント運営)	秋の交通安全 活動参加
10月	上期活動反省 会および、下期 活動打合せ				学区運動会参 加
11月		PRチラシ配布	発達障害の理 解を深める講 演会準備会 東公民館主催 のフェスタに 参加(ブース出 展)		柿まつり参加
12月			発達障害の理 解を深める講 演会準備会		検証会議実施
1月	次年度申請書 作成		講演会実施		
2月			反省会		
3月	下期反省会 事業報告書作成				各学園校卒業 式 反省会

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算	予 算	備 考
岡山市補助金		282, 000	(100 円未満の端数切捨て)
実施団体負担金		0	
参加者負担金		0	
協賛金		282, 000	連合町内会、交対協など
寄付、他収入		0	
計		564, 000	

◆ 支 出

単位:円

項 目	前年度決算	予 算	備 考
①消耗品費		10, 000	①筆記用具、データ保存用メモ等
		40, 000	②泥んこ遊び場保護シート 泥除けマット、養生シート スタッフ用足袋 30 足
		60, 000	③スタッフ用Tシャツ 2,000 円×30 着
		60, 000	④たすき 50本×1,200 円
		60, 000	⑤PR活動用缶バッチ 56 mm用 1,000 個×60 円
②食糧費		30, 000	①会議、準備時のスタッフ茶代150円×のべ200名分
③印刷製本費		30, 000	①講演会用チラシ 6,000 枚
		8, 000	②ボランティア活動証明書 100 枚
		60, 000	③PR 活動用品 (シール作成 5,000 枚)
⑥通信運搬費		10, 000	封筒、切手代等

⑨使用料		5,000	泥んこ遊び会場の水道 使用量
⑩原材料費		25,000	①泥んこ遊び場看板作成 費(紙、ナイロン、コンパネ、 杭等)
⑪委託料		100,000	①泥んこ遊び場内整備及 び安全対策(柄、破片撤 去、土手(観客部) づくり等) (重機、人件費、廃材処分 費等)
⑬報償費		50,000 16,000	①講師謝礼(2名分) ②託児謝礼 (2,000円×4名×2回 計8名分)
計		564,000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	☒ 希望する	・	☐ 希望しない
-----------	---------------------------------------	---	-----------------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

上記運営予算の立替えができないため

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・旅費交通費・通信運搬費・謝礼金・会場使用料・保険料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。